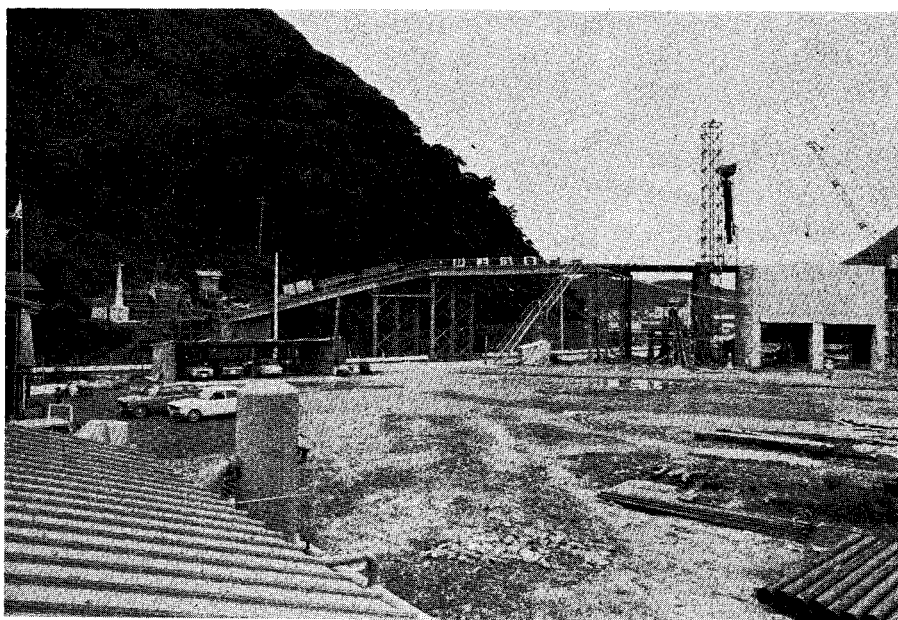
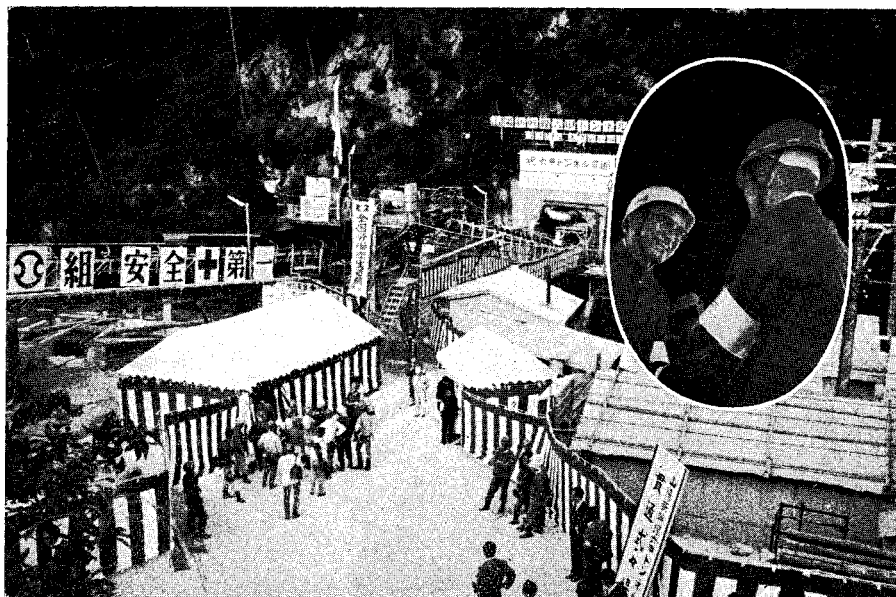


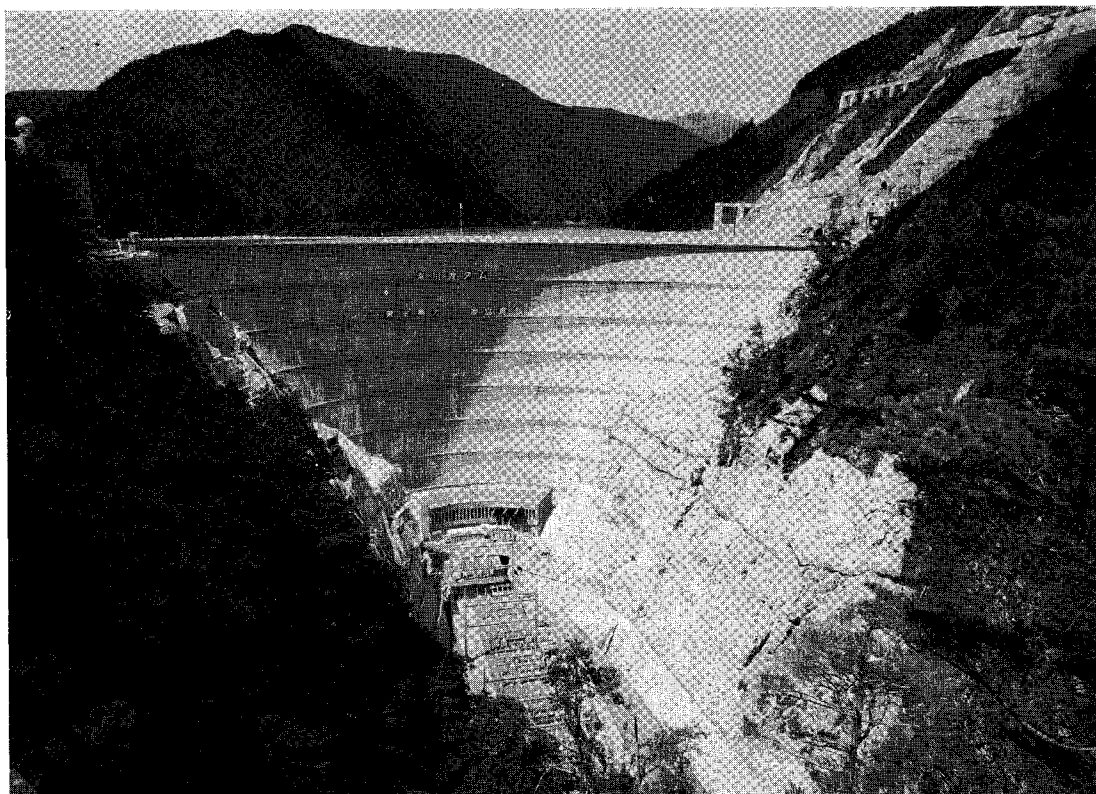
山陽新幹線工事の話題・六甲トンネル導坑貫通／新関門トンネル着工—



昭和 42 年 3 月 3 日着工，46 年 4 月 30 日竣工をめざす六甲トンネル工事の最初の目標である導坑貫通が，幾多の難関をのりこえて，10 月 2 日無事なしとげられた。また，ときをおなじくして昭和 50 年 4 月の営業運転に間に合せるように，新関門トンネル工事も着工のはこびとなった。

完成時には世界第 2 位の長大トンネルとなるこのトンネルは，工区延長 3 040 m であり，昭和 48 年中に完成させるべく準備に入ったものである。本文ニュース欄参照。写真上は，貫通式場寸景と歓びの握手を交す磯崎国鉄総裁，写真下は，和布刈工区の斜坑坑口と坑外設備である。

安曇発電所・竣工



梓川電源開発の主体をなす安曇発電所が、昭和 45 年 8 月 5 日完成した。同発電所際に完成している奈川渡ダムは昭和 39 年 12 月に着工、昭和 44 年 5 月に完成した高さ 155.0 m のアーチ式ダムであり、日本有数のものである。今般完成をみた安曇発電所は、揚水発電により 623 000 kW の電力を生み出すこととなるもので、日本アルプスの表玄関である上高地に通ずる道程に、すぐれた景観美を添えてハイカーらをも楽しませている。本文ニュース欄参照。

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

特集・橋梁／土木学会橋梁構造委員会・土木学会誌編集委員会

土木学会誌・第55巻第11号, pp. 2~66, 昭和45年11月 (Nov. 1970)

近年、開発の波にのって、わが国における橋梁技術の進展はめざましいものがあるが、ややバランスを失ったうわべだけの成長を誇っているのではないか、という反省に立って現状を分析し、問題点を探り、橋梁専門家以外にも問題提起を行ない、橋を中心とした構造工学のより正しい発展をはかることを念願として、土木学会橋梁構造委員会、土木学会誌編集委員会が協力して企画した特集号であり、内容はほぼ次のとおりである。

1. 巻頭言「創造の時代」では、平井橋梁構造委員長が、従来ともあれば陥りがちだった技術の模倣を排し、新しい創造のアイデアを伸ばすべき時代であることを強調している。
2. 「橋梁技術の最近の動向」では内外の展望を鋼構造（明石重雄）、コンクリート構造（尾坂芳夫）、下部構造（吉田巖）の3項に分けて、簡潔にわかり易く解説している。
3. 「IABSE について」では、前田幸雄が性格と組織、専門活動、対外活動などを紹介、第10回大会が1976年に日本で開催されるにあたり国内構造関係研究機関の協調と研究者の協力を強く呼びかけている。
4. 「橋の計画を決定するものは何か」では、総論（村上永一）、路線計画、線形との関連（武部健一）、河川との関連（縄田照美）、橋の形式選定（足立洪）が分担して執筆しているが、問題が複雑なため、沢井広之幹事を混じえて討議し、それを踏まえて村上が総論の執筆にあっている。
5. 「橋梁の設計から工事に關し、わが国が当面する問題点と対策」では田原保二が“主として企業の立場から、特に技術力の充足について”健筆をふるい、序論、省力化、技術者の確保と養成、建設事業の合理的システム化など、多くの広範な問題を摘出してゐる。
6. 「橋梁の設計についての問題点」では、小西一郎が設計の自動化、調和のとれた設計、現象に忠実な設計、極限状態の追求と安全性、長大化の安全性と信頼性、設計示方書など個々の問題点を述べている。
7. 「標準化と省力化」では、設計と標準化・自動化（田島二郎）、鋼橋の設作・架設（池田肇）、コンクリート橋の製作（津野和男）を、それぞれの立場で解説した。
8. 「橋の耐荷力と寿命」では道路橋（国広哲男・太田実）、鉄道橋（大橋勝弘・山田幸夫）の2項に分け、従来あまり触れられなかった耐荷力と寿命の問題を分析、将来の外的条件の推移と機能上の限界について適確な見とおしを立てるべきことを提案している。
9. 「座談会・橋一昔と今」では成瀬勝武、沼田政矩、福田武雄、田島二郎が伊藤学の司会のもとに、わが国の橋梁工学のなり立ちと特異性、設計示方書のこと、設計・施工・管理、昔の橋と今の橋の美観など、興味ぶかい話題が語られている。
10. 「歩道橋のかかえている諸問題」では三上澄が、歩道橋誕生の経緯、要求される条件、効果と批判、などを述べ、反省すべき多くの点を卒直に認め、時代の要求によって生まれた一時的な構造物で、現在のような歩道橋は発展的に消滅すべき運命のものと結んでいる。

二次応力について／友永和夫

土木学会誌・第55巻第11号, pp. 67~73, 昭和45年11月 (Nov. 1970)

二次応力に關して、欧米各国の示方書における考え方の変遷と、欧米各国において、二次応力にどのように対処しているかを述べ、特にアメリカおよびインドの示方書に明記されている、二次応力応力をプレストレスングによって消去する方法について述べ、実橋に実施されたアメリカの二橋に言及し、高力ボルト連結、溶接部材、高張力鋼を使用する近代橋梁と、二次応力の関係につき留意すべき点にふれ、二次応力を消す新しい方法についても言及している。

11月下旬
発行予定

鋼鉄道橋設計標準解説

土木学会編 / A5・380頁・上製 2000円 糸編 1800円(〒110円)

内 容 一 覧

1. 国鉄の規程体系	る場合の有効断面積	11.4 最大中心間隔
2. 建造物設計基準規程	第7章 部材および連結の計算	11.5 最小縁端距離
3. 建造物設計標準 (鋼鉄道橋) 解説および付属資料	7.1 部材の曲げ応力度	11.6 最大縁端距離
第1章 総 則	7.2 軸方向および曲げモーメント をうける部材の検算	11.7 山形鋼に用いるリベットまたは 高力ボルト
1.1 適用範囲	7.3 部材のせん断応力度	11.8 締付長の大きいリベット
1.2 建築限界等	7.4 曲げモーメントとせん断力と の合成応力	11.9 間接添接の場合のリベット数
第2章 荷 重	7.5 リベット、ボルトおよびピン の応力計算	11.10 フィラーがある場合のリベット
2.1 荷重の種類	7.6 引張力、圧縮力またはせん断 力をうける溶接継手	11.11 リベットまたはボルトの最小 数
2.2 死荷重	7.7 T形継手のすみ肉溶接が曲げ モーメントとせん断力とをう ける場合の検算	11.12 引張をうけるリベットおよび ボルト
2.3 列車荷重	7.8 部材の連結	11.13 ピン連結
2.4 衝突荷重	7.9 プレートガーダーの腹板の添接	11.14 ピン
2.5 遠心荷重	第8章 板要素の幅厚比と補剛材	11.15 ピン孔を有する部材
2.6 車両横荷重	8.1 部材の軸方向に圧縮力を受け る板要素	第12章 綾構およびダイヤフラム
2.7 制動荷重および始動荷重	8.2 部材の軸方向の圧縮力と曲げ モーメントとを受ける板要素	12.1 綾構部材
2.8 風荷重	8.3 曲げモーメントを受ける部材 の腹板	12.2 横 構
2.9 設計震度	8.4 せん断力と曲げモーメントを 受ける部材の腹板	12.3 プレーキトラス
2.10 温度変化	第9章 床 組	12.4 中間対傾材
2.11 ロングレール縦荷重	9.1 縦 桁	12.5 端 対 傾 材
2.12 衝突荷重	9.2 連続縦桁の曲げモーメント	12.6 ポ ー タ ル
2.13 橋側歩道の荷重	9.3 横 桁	第13章 プレートガーダー
2.14 架設荷重、橋梁への添加物、 支点変位の影響、雪荷重等	9.4 縦桁と横桁との連結	13.1 フランジ断面
第3章 材 料	9.5 横桁と主桁との連結	13.2 フランジプレート端の前面す み肉溶接
3.1 材料一般	9.6 鋼床板の構造	13.3 フランジプレートと腹板とを 連結する溶接
3.2 構造用鋼材	9.7 鋼床板の縦リブの設計	13.4 端 補 剛 材
3.3 接合用材料	9.8 鋼床板の横桁の設計	13.5 下路プレートガーダーの主桁 上フランジの固定
3.4 支承用材料	第10章 溶 接 継 手	13.6 鋼床板としての応力と上フラ ンジとしての応力との合成
第4章 許 容 応 力 度	10.1 溶 接 の 種 類	第14章 ト ラ ス
4.1 許 容 応 力 度	10.2 溶接継手のど厚	14.1 弦材等の構成
4.2 構造用鋼材および溶着部の許 容応力度	10.3 溶接の有効長	14.2 孔あきプレートを有する部材
4.3 リベット、ボルトおよびピン	10.4 グループ溶接を用いた突合せ 継手	14.3 主構のガセットの厚さ
4.4 支 承	10.5 グループ溶接の開先形状	14.4 ポニートラス
第5章 設 計 一 般	10.6 すみ肉溶接のサイズ	第15章 支 承
5.1 鋼材の弾性定数	10.7 すみ肉溶接の最小長さ	15.1 支 承 一 般
5.2 橋 桁 の 幅	10.8 重 ね 継 手	15.2 可動支承の種類
5.3 橋桁のたわみ	10.9 T継手に用いるすみ肉溶接	15.3 可動支承の可動量
5.4 橋桁の転倒に対する検算	10.10 溶接とリベットまたは普通ボ ルトとの併用	15.4 可動支承の摩擦係数
5.5 桁の上揚力に対する検算	第11章 リベット継手、ボルト継手お よびピン連結	15.5 支承部分の寸法
5.6 部材の細長比	11.1 リベットの形状および寸法	15.6 アンカーボルト
5.7 二次応力	11.2 ボルトの形状および寸法	15.7 支承の防じん装置
5.8 部材断面の構成	11.3 最小中心間隔	第16章 付 属 設 備
5.9 鋼材の厚さ		16.1 橋 側 歩 道
5.10 最小山形鋼		16.2 張 板
5.11 そ り		16.3 排 水
第6章 有 効 断 面 積		4. 鋼鉄道橋関連規程、規格目録
6.1 リベット孔およびボルト孔		
6.2 純断面積の計算		
6.3 引張山形鋼の有効断面積		
6.4 圧縮部材の有効断面積		
6.5 たわみ、不静定力等を計算す		

付 属 資 料 1~21

4. 鋼鉄道橋関連規程、規格目録

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考		
本 部	11月26日(木) ~27日(金)	第17回海岸工学講習会	新潟市	11号会告6 参照		
	12月5日(土)					
	1月29日(金)	鋼鉄道橋設計示方書改訂に伴う講習会 第5回土木計画学シンポジウム	土木学会 同	11号会告5 "		
	1月30日(土)			11号会告7 "		
	1月~31日(日)	第7回衛生工学研究討論会	福岡市	11号会告7 "		
2月12日(金) ~13日(土)	第15回水理講演会			東京	11号会告8 "	
東北支部	11月12日(木)	技術講座	仙台市	10号会告13 "		
関東支部	12月2日(水) ~3日(木)	講習会	東京	10号会告14 "		
中部支部	11月20日(金)	講習会	名古屋市	10号会告15 "		
関西支部	11月17日(火) ~18日(水)	講習会	大阪市	9号会告15 "		
	11月30日(月)			Gerwick 講演会	同	11号会告10 "
	12月8日(火)	研究会	同	10号会告16 "		
	12月15日(火)	ICES 研究会	同	11号会告10 "		
	1月18日(月)	海外事情講演会	同	11号会告11 "		
	同	会員懇親会	同	11号会告11 "		
	12月2日(水) ~15日(火)	学生映画会	関西地区	11号会告11 "		
	11月14日(土)			学生見学会	同	11号会告11 "
	11月28日(土)			学生見学会	同	11号会告11 "
中国四国支部	12月8日(火)	講習会 見学会	高知市 同	11号会告12 "		
	12月9日(水)			11号会告13 "		
西部支部	2月21日(日)	支部総会・研究発表会	福岡市	11号会告13 "		
そ の 他	11月17日(火) ~20日(金)	第3回日本地震工学シンポジウム	東京	10号会告9 "		
	11月26日(木) ~27日(金)					
	12月4日(金)	第3回岩の力学国内シンポジウム 第17回橋梁・構造工学研究発表会 流体輸送に関するシンポジウム	京都市 東京市 大阪	10号会告11 "		
	1月23日(土)			11号会告6 "		
11号会告8 "						
お 知 ら せ	■昭和45年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集			11号会告2 "		
	■論文報告集のページ数の厳守に伴う投稿規則の一部改正について			11号会告5 "		
	■アルミナセメントに関するシンポジウム			11号会告8 "		
	■第8回理工学における同位元素研究発表会論文募集			11号会告9 "		

第4回国土開発映画コンクール発表会

第4回国土開発映画コンクールを土木学会主催にて行なっておりましたが、このたび入賞作品が決まりましたので、下記により同コンクールの発表会を開催致しますので、御観賞下さいませよう御案内致します。

記

日 時：昭和45年11月20日(金) 13.30~16.00

場 所：土木学会図書館講堂

上映作品：映画コンクール入賞作品(3本上映予定)

注：11月には本発表会がありますので、第2土曜日の映画会は中止致します。

昭和 45 年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。表彰規程および下記募集要項をご参照のうえ、ふるって推薦または応募されますようお願いいたします。ただし、土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。

◎土木学会賞候補募集要項

項目 種別	技 術 賞	論 文 賞	吉 田 賞	田 中 賞
候補対象	土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な業績を対象とし次の各項について選考する。 1. 土木事業の計画、設計または施工等に関する業績 2. 土木事業の計画、設計、施工に関する総合的な業績	(論文賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたものを。 (論文賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者の年齢が原則として受賞時(46年5月末日)に満36才未満であるものを。	コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートに関する学・協会等の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考案などの報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。	(論文) 橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし、公開されたものの中から選ばれる。 (作品) 橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有する物を対象とし、つぎの各グループについて選考する。 (1) 長大橋梁 (2) 中小橋梁 (3) その付特殊橋梁および橋梁に関連するもの
受賞候補者	個人または団体	本学会員に限る。 過去の土木受賞者は既受賞者として重ねて同一の賞の候補者となることはできない。共著者(共同研究者)の中にも非会員、既受賞者、その他受賞候補者になることはできない。なお、受賞候補者から加えることはできないが、共著者(共同研究者)のうち受賞候補者から加える場合は、必ず受賞候補者を具体的に明記すること。	個人または研究グループ。 ただし、外国国籍のもの、本学会員であつて、その候補対象を土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に発表したことに限る。また、過去の田中賞受賞者は重ねて吉田賞受賞者になることができない。なお、共著者(共同研究者)のうち受賞候補者から加えることはできないが、共著者(共同研究者)を受賞候補者から加える場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。	(論文) 個人またはその複数の、ただし外国国籍を有するもの、論文については日本において最初に発表されたものに限り、また、過去の田中賞受賞者は重ねて田中賞候補となることができない。共著者(共同研究者)のうち受賞候補者から加えることはできないが、共著者(共同研究者)を受賞候補者から加える場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。 (作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。
候補の範囲	昭和44年1月1日から昭和45年12月31日までの間にできた業績であつて日本国内において実施されたものに限る。	昭和44年1月1日から、昭和45年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に登載されたものを含む。他、他学・協会、大学、官公庁、会社など刊行物に登載されたものを含む。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には前提に該当する論文とその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。		(論文) 論文賞、吉田賞に同じ (作品) 昭和44年1月1日から昭和45年12月31日までの間に完成した構造物で日本人により計画、設計あるいは施工されたものに限る。 なお、完成の時期については、原則的には普通の橋梁等では、供用開始の時、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、その自身の完成したと見做される時とする。
推薦(応募)の方法	推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会・法人とする。 推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は会員、支部その他一般とするが、会員目からの応募であつてもよい。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。	推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦書は別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文報告集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。	(論文) 推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦書は別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は、推薦書に添えて審査に必要な資料25部を提出しなければならない。 (作品) 推薦者は会員、支部、その他一般として、受賞候補に関与した当事者であつてもよい。 推薦者は別に定める推薦調書1部を提出する(写真は25枚添付すること)。
(推薦および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい)				
審査	表彰委員会において行なう。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求めることがある。	吉田賞選考委員会において行なう。	田中賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときはさらに関係資料の提出を求めることがある。
表彰	第57回通常総会において行ない、賞状、賞牌を贈る。	第57回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第57回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第57回通常総会において表彰する。
締切日	昭和 46 年 1 月 20 日			
提出先	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会表彰委員会	土木学会論文賞選考委員会	土木学会吉田賞選考委員会	土木学会田中賞選考委員会

土木学会表彰規程

(総則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

(賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(総称)を授与して行なう。

1. 功績賞
2. 技術賞
3. 論文賞
4. 吉田賞
5. 田中賞

(功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものに授与する。

(技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

(論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

- (2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として受賞時に満36才未満であるものに授与する。

(吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったと認められたものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計・施工・考案等の報告またはそれらの要旨が掲載されたものの中から選ばれる。

(田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

(1) 論文

橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究結果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。

(2) 作品

橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その他特殊橋梁および橋梁に関連あるもののグループ別に選ばれる。

(委員会)

第8条 土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。

1. 表彰委員会
2. 論文賞選考委員会
3. 吉田賞選考委員会
4. 田中賞選考委員会

- (2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補を決定する。

- (3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行なう。

- (4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行なう。

- (5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行なう。

- (6) 前記各委員会の構成、運営、その他については別に内規で定める。

(賞の決定、表彰の時期・方法)

第9条 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行なう。

◎吉田研究奨励金候補者の募集

1. 候補対象

コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレスト コンクリートに関する研究に従事するもので、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、授与されるものが、原則として満 40 才以下のものに限り、かつ特別な場合を除き同一研究計画に対してすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

2. 募集の題目

(1) 要望課題

- ① 鉄筋コンクリートまたは、プレストレストコンクリート部材の極限設計に関する研究
- ② プレキャスト コンクリート部材の接合に関する研究
- ③ 軽量コンクリートに関する研究
- ④ コンクリート内の微細なひびわれに関する研究

(2) 自由課題

3. 募集の方法

日本の国籍を有する個人または研究グループの応募による。

4. 研究成果の報告

研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか、昭和 47 年 10 月中旬施行の第 27 回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

5. 応募の方法

一定様式による研究計画書 1 部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用して下さい)

6. 審査

吉田賞選考委員会において行なう。

7. 締切期日

昭和 46 年 1 月 20 日

8. 提出先

郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会吉田賞選考委員会

◎昨年度の土木学会賞受賞者 (敬称略)

功績賞：久保田 豊 土木工学ならびに土木事業の進展

岡部 三郎

技術賞：東京電力(株) 梓川筋の大容量揚水発電所建設

論文賞：後藤 尚男 } 地震時における最大地動の確率論的研究
 亀田 弘行 }

市原 薫 路面のすべり抵抗に関する研究

論文奨励賞：吉田 裕 任意形状の平板曲げの数値解析法

木村 孟 二層地盤の力学性状に関する解析的研究

吉田賞：西林 新蔵 人工軽量骨材コンクリートに関する研究 (総合題目)

田中賞：伊藤 文人 実働荷重による鉄道橋の疲労被害推定

後藤 茂夫 { 有限変形法による吊橋の解法
 有限変形法に関する 2, 3 の考察

オークランドハーバー橋 (拡幅部) } 作品部門
首都高速両国大橋
阪神高速大和川大橋

論文報告集のページ数の厳守に伴う投稿規則の一部改正について

先に会告（学会誌 55 巻 6 号）でお知らせ致しました論文報告集投稿要項の「4.論文報告の長さ」にある規定ページ（12 ページ）を超過する論文が最近非常に目立って参りました。論文報告集は会員全体のものであり、より多くの論文を掲載するには、おのずから 1 編あたりのページ数が限定されて参ります。

論文集編集委員会ではあらゆる点から検討を行なった結果 1 編あたりのページ数を 12 ページに決定したものであり、やむを得ない場合のみ超過を認めて参りましたが、現状では超過ページの判断の基準が困難になって来ましたので 12 月 1 日以降受け付けの論文から下記のように扱うこととなりますのでご了承下さい。なお欧文で投稿の論文も同じ条件です。ただし、欧文で投稿された論文は従来の 9 ポー一段組を二段組に変更します。

記

- 論文報告の長さ：論文報告 1 編の長さは原則として図表を含み刷上がり 12 ページ以内とします。ただし、4 ページまでの超過は認めますが、超過分は実費（刷上り 1 ページあたり 6000 円）負担していただきます。それを超過した論文は受付けません。
- 和文要旨について：和文要旨は学会誌の論文紹介欄に掲載しますので論文の要旨が理解できるように 800 字（±10%まで認めます）にまとめて 4 部提出して下さい。

鋼鉄道橋設計示方書改訂に伴う講習会

◀ 12 月 5 日（土） ▶

鋼鉄道橋の設計は、鋼鉄道橋設計示方書（昭和 31 年）、高張力鋼鉄道橋設計示方書案（昭和 34 年）および溶接鋼鉄道橋設計示方書案（昭和 35 年）に基づいて行なわれて来ましたが、国鉄委託による土木学会の鋼鉄道橋設計示方書委員会において、各種の調査研究の結果によりそれらを統合して得られた原案を基にした鋼鉄道橋設計標準が、45 年 4 月より国鉄において施行されるようになりました。

同委員会の審議資料に基づき、各条項の適用方法、条文の趣旨等をまとめた解説がこの 11 月に出版されるのを機会に、下記により講習会を開催致しますので、多数ご参加下さるようご案内致します。

記

- 期 日：1970 年 12 月 5 日（土）
- 会 場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷 1 丁目・外濠公園入口）
- 申込方法：参加希望者は、官製はがきに ① 氏名、② 勤務先、③ 連絡先住所を明記のうえ 11 月 21 日までに土木学会事業課宛お申込み下さい。定員がありますので早目にお申込み願いたく、満員の際はお断りすることもありますのでご了承下さい。
- 参加費：3000 円（テキスト代を含む）。当日会場にてお払込み下さい。
- 定 員：200 名
- 題目および講師

9.30～9.40	開会あいさつ	鋼鉄道橋設計示方書委員会委員長	沼 田 政 矩
9.40～11.00	(1) 鋼鉄道橋設計標準 1 章～5 章	国鉄構造物設計事務所	田 島 二 郎
11.00～12.30	(2) 鋼鉄道橋設計標準 6 章～16 章	国鉄構造物設計事務所	稲 葉 紀 昭
12.30～13.30	昼 食・休 憩		
13.30～14.30	(3) 橋梁と列車走行	国鉄構造物設計事務所	阿 部 英 彦
14.30～15.30	(4) 鉄道橋に対する繰返し荷重の影響	国鉄鉄道技術研究所	伊 藤 文 人
15.30～17.00	(5) 座屈許容応力度および板要素の幅厚比	東京大学工学部	西 野 文 雄
17.00～17.10	閉会あいさつ	鋼鉄道橋設計示方書委員会 幹事長	田 島 二 郎

第17回海岸工学講演会

◀ 11月26日(木)～27日(金) ▶

第17回海岸工学講演会は、つぎの日程により新潟市において開催致しますので、多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日：1970年11月26日(木)～27日(金)
2. 会 場：第1会場：新潟県民会館(新潟市一番堀通り3の1 TEL 0252-28-4481)
第2会場：新潟県建設会館(新潟市学校町通2番町 TEL 0252-22-7101)
3. 主 催：土木学会海岸工学委員会
4. 講演題目：本誌55巻9号会告5～7ページ参照
5. 懇親会：
 - (1) 期 日：1970年11月26日(木) 18.00 から
 - (2) 会 場：ホテル新潟
 - (3) 会 費：1,000円
 - (4) 定 員：70名
6. 見学会：
 - (1) 期 日：1970年11月28日(土) 9.30～16.00
 - (2) コー ス：9.30 新潟駅前集合・出発→西港→東港→ビーチセンター(昼食)海岸保全施設→関屋分水→新潟駅前解散 16.00
 - (3) 参加費：600円(バス代, 昼食代)
 - (4) 定 員：50名
7. 申込方法：懇親会、見学会に参加ご希望の方は、氏名、勤務先、連絡先住所を明記のうえ、参加費を添えて11月14日(土)までに下記へお申込み下さい。定員がありますので早目にお申込み下さい。なお、参加者多数の場合の受け付けは着金の順になりますのでご了承下さい。また、講演会(11月26日～27日)の参加は自由(参加費無料)です。
8. 懇親会・見学会申込先：郵便番号160 東京都新宿区四谷一丁目 土木学会海岸工学講演会係

“新材料・新工法を用いた構造物における諸問題”に関する研究発表会

(第17回橋梁・構造工学研究発表会)

標題の研究発表会を下記により開催いたしますので、多数ご参集下さいますようお願いいたします。

1. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
2. 期 日：1970年12月4日(金)
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目)
4. 会 費：聴講無料
5. 講演概要：会場にて実費頒布
6. プログラム：

9.30～9.40	開会の辞	日本学術会議構造研究連絡委員会橋梁・構造工学分科会 委員 平 井 教	
9.40～10.00	(1) 有孔ばりの解法(仮題)	九州大学	○後藤憲之輔・山崎徳也
10.00～10.20	(2) 主構造と鋼床板床組をトラス部材で結合した場合の実験的研究	日立造船	○山村信道・多田和夫・横江 稔
10.20～10.40	(3) 木造骨組仕口の新工法	碓建築設計事務所	石 田 信 一
10.40～11.00	(4) 高力ボルト支圧型継手の実験的研究	京都大学	小西一郎・神戸大学 西村 昭・高田機工 矢幡 健・○若林武志
11.00～11.10	休 憩		
11.10～11.30	(5) 全合成および半合成PC桁のクリープについて	九州大学	彦 坂 照
11.30～11.50	(6) 合成桁床版補強筋を利用したずれ止めについて	神戸大学	○西村 昭・栗本鉄工所 在賀良介
11.50～12.10	(7) 斜張橋形式連続合成桁について	大阪工業大学	○赤尾親助・栗本鉄工所 村田広治
12.10～12.30	(8) 逆T形鋼桁に小形I形鋼をとりつけた格子床版合成桁について	大阪大学	前田幸雄・神戸製鋼所 駿河敏一・○山田 紘

12.30~13.30	昼食・休憩		
13.30~13.50	(9)	愛知県千鳥橋床版の FRP 補強工法について	名古屋工業大学 ○中村卓次・シヨールボンド 福岡昌三・池田 哲
13.50~14.10	(10)	プレフレックスばりの製作時における座屈安定性	金沢大学 吉田 博・西田 進・川田工業 渡辺 湧
14.10~14.30	(11)	FPR 工法による鉄筋コンクリートT桁橋の補強例	建設省 甲斐 啓
14.30~14.50	(12)	道路橋と盛土の接続部に関する新構造形式(アプローチ、クッション方式)の開発	日本道路公団 赤井 公昭
14.50~15.00	休 憩		
15.00~15.20	(13)	鋼管矢板ウエルによる海中ピアの施工例	川崎製鉄 脇黒和彦・○富永真生・新村和規
15.20~15.40	(14)	遠心力成形 PC くいシートパイルの応用	京都大学 六 車 照
15.40~16.00		国際橋梁・構造工学協会(略称 I.A.B.S.E)の近況報告	日本学術会議構造研究連絡委員会橋梁・構造工学分科会 幹事 伊 藤 学
16.00~16.10	閉 会 の 辞	日本学術会議構造研究連絡委員会橋梁・構造工学分科会 委員長 仲 威 雄	

第5回土木計画学シンポジウム

◀ 1月29日(金) ▶

今回のシンポジウムは、土木計画学の体系化への一環として、前回の現象システム研究に対し、評価システムを主題とします。今回のすすめ方は、川崎市上水道、苫小牧港、中央道、相模川、新都市などの完成しているものに対し、土木事業の計画から運用に至るまでの一ラウンドを具体的に討論し、その中から評価システムを解明してゆこうとするものである。

前回同様、討議に十分時間をかけ、討議の内容もプロシーディングスに収録しますので、各位ふるってご参加下さい。

土木計画学研究委員会

1. 期 日：1971年1月29日(金)
2. 時 間：9.30~17.00
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目無番地/国電・地下鉄四ツ谷駅際外濠公園内/電話 03-351-5130 番)
4. 主 題：土木計画の評価システム
5. 申込方法：参加希望者は、官製葉書に、①氏名、②所属官職名、③連絡先郵便番号、住所、所属、電話、④会員区分、⑤連絡事項、を記入のうえ、1970年12月末日までに下記あて申込んで下さい。参加票をお届けします。
〒160/東京都新宿区四谷1丁目無番地 土木学会事務局編集課
6. 参加費：会費 1500円、会員外 2000円
ただし、前刷代およびおって発刊される“第5回土木計画学シンポジウム”プロシーディングスの図書代を含みます。参加費はシンポジウム当日、必要事項記入済みの参加票と同時に受付にて徴収します。
7. 定 員：一般 80名
8. 備 考：不明な点は電話でお問合せ下さい。

第7回衛生工学研究討論会論文募集

土木学会衛生工学委員会は、下記により研究討論会を実施しますので、論文提出希望者はふるってご応募下さいますようお願いいたします。

記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1971年1月30日(土)、31日(日)の2日間
3. 場 所：九州大学工学部(福岡市)
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：10月末日までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会まで提出下さい。なお、原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙(申込次第送付)を使用して下さい。原稿枚数は10枚以内とし、期日以後は受け付けをお断りしますのでご注意ください。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会(東京都新宿区四谷1丁目)
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。
8. 懇 親 会：第1日目(30日)終了後懇親会を予定しております。

第15回水理講演会

▶ 2月12日(金)~13日(土) ◀

第15回水理講演会を下記により開催致しますので、ご案内いたします。

1. 期 日：1971年2月12日(金)~13日(土)
2. 会 場：発明会館(東京都港区芝西久保明舟町17番地・地下鉄虎ノ門下車徒歩3分)
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 課 題：A. 移動河床の水理/B. 混相流の水理/C. 水理現象の確率・統計的シミュレーション
5. 申 込：締切りました。
6. 講演原稿締切期日：1970年12月5日(土)(厳守)

アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム

土木学会コンクリート委員会ではアルミナセメントの使用方法に関する各種試験研究を行なっておりますが、これらの成果を中心に下記によりシンポジウムを開催する予定ですのであらかじめお知らせいたします。

1. 期 日：1971年4,5月頃
2. 場 所：東 京

なお、詳細については決定次第本欄でお知らせいたします。

流体輸送に関するシンポジウム

◀ 1月23日(土) ▶

1. 開催日時：1971年1月23日(土) 9.20~17.10
2. 開催場所：大阪科学技術センター(大阪市西区靉1丁目118, TEL 大阪(06)443-5321)
3. 共 催：日本学術会議水力学, 水理学研究連絡委員会・土木学会ほか関係学協会
4. プログラム：

9.20~9.30	開会の辞				
第1セッション					
9.30~10.00	固液混相流の力学と流体輸送	東京工業大学	吉 川 秀 夫		
10.00~10.30	気液混相流の力学と流体輸送	神戸大学	赤 川 浩 爾		
10.30~10.40	討 議				
第2セッション					
10.50~11.20	スラリー輸送用パイプライン	新日本製鉄	黒 田 太 郎		
11.20~11.50	スラリー輸送管の摩耗について	住友金属	三好栄次・久光脩文		
11.50~12.00	討 議				
12.00~13.30	昼食・休憩				
第3セッション					
13.30~14.00	流体輸送とパイプの品質	日本鋼管	成 田 國 郎		
14.00~14.30	天然ガスのパイプラインによる長距離輸送	新日本製鉄	門 屋 毅 敷		
14.30~15.00	用水の流送時間について	京都大学	南 勲		
15.00~15.10	討 議				
第4セッション					
15.20~15.50	パイプライン計画・設計の実際教育	住友金属	吉米地 正 俊		
15.50~16.20	水力学・水理学研究の動向	中央大学	林 泰 造		
16.20~16.50	混相流研究所とその構想	大阪電通大	植 松 時 雄		
16.50~17.00	討 議				
17.00~17.10	閉会の辞				

第 8 回理工学における同位元素研究発表会論文募集

関係諸学協会の共同主催で、標記の研究発表会を開催いたします。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。会員各位におかれては奮ってご応募、ご参加下さることを希望いたします。

会 期：1971 年 4 月 15 日 (木)～17 日 (土)

会 場：国立教育会館（東京虎の門）

共同主催：土木学会ほか関係諸学協会

発表論文：

- (1) 内 容；それぞれの研究分野において、その専門的成果をうるにいたった同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と、同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。なお、えられた専門的成果の報告も差しつかえありません。研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分がまかれていることを必要とします。
- (2) 発表申込み区分；プログラム編成の便宜上、つぎのように申込み区分を設けます。

- ① 放射線照射のための線源および装置に関するもの
- ② 放射線化学その他照射効果に関するもの
- ③ ラジオグラフィに関するもの（装置に関するものを含む）
- ④ オートラジオグラフィに関するもの
- ⑤ 放射線利用計測機器の利用と開発に関するもの
- ⑥ 放射線利用機器に関するもの（エネルギーの利用、発光塗料なども含む）
- ⑦ トレーサーの利用に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑧ 分析に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑨ 製造、分離、精製に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑩ 化合物の合成、標識化に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑪ 放射線測定法および測定器に関するもの
- ⑫ 安全取扱いに関するもの（遮蔽、施設、設備、器具、健康管理なども含む）
- ⑬ 廃棄物処理、汚染除去に関するもの
- ⑭ 地球科学、宇宙科学およびラジオエコロジーに関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑮ そ の 他

- (3) 発表時間 1 件の発表；

発表者の資格：発表申込者が所属する主催学、協会の年会（大会）等の規定または慣例に従う。

発表申込：所定の申込書（1 件 1 通）によりお申し込み下さい。所定の申込書は、下記あて請求して下さい。

113 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 45 号（理研内） 日本放射性同位元素協会内
理工学における同位元素研究発表会運営委員会 電話 東京 (03) 946 局 7111 番（代表）

発表申込み締切：1971 年 1 月 30 日（土）必着

講演要旨：講演要旨集発行します。発表申込があり次第、所定の原稿用紙（1 200 字程度）をお送りします。

講演要旨原稿締切：1971 年 2 月 27 日（土）必着

そ の 他

- (1) この研究発表会の運営は、主催学、協会より選出された各 1 名の委員で構成された運営委員会において行ないます。
- (2) フルペーパーの報文集は特に発行しません。
なお、日本放射性同位元素協会の学術機関誌“RADIOISOTOPES”にはこの研究発表会の発表論文にかぎり、同協会会員外でも投稿することができます。
- (3) つぎのいずれかに該当する場合には発表をお断りしますから、ご注意下さい。
 - i) 講演要旨に記述された内容が、本研究発表会の趣旨に合致すると認められない場合。
 - ii) 発表会の資格が、所属主催学協会の規定または慣例に合致しない場合。
 - iii) 期日までに講演要旨原稿が提出されなかった場合。

東北支部行事案内 (郵便番号 980 仙台市二日町 18-25 丸七ビル)
電話 (0222) 22-8509 番

技術研究発表会論文・報文募集

表記の原稿をつぎの要領で募集します。

1. 発表：1971年2月23日(火) 仙台市宮城県民会館で口頭発表のほか“技術研究発表講演概要”として印刷刊行配布する。
2. 内容：土木工学，土木技術，工事報告など。
3. 応募方法：支部事務局へ文書または口頭で申込みのこと。申込みにより所定の原稿用紙と起稿要領などを急送する。
4. 応募資格：東北支部所属の会員を原則とする。
5. 申込締切：1971年12月15日(期限後到着のものは受理いたしませんのでご注意下さい。)
6. 原稿締切：1971年1月20日必着のこと。

関西支部行事案内(郵便番号 541 大阪市東区船場中央 2-2・船場センタービル4号館 409号)
電話 (06) 271-6686・振替口座大阪 82599 番

(1) 土木工学電子計算システム (ICES) 研究会

◀ 12月15日(火) ▶

共 催：建設コンサルタンツ協会大阪支部・土木学会関西支部

土木工学電子計算システム (ICES=Integrated Civil Engineering System) は、従来のフォートランなどの電子計算機用語と異なり、技術用語そのものを用いて、容易に電算機を使用できるようにした画期的な用語体系であり、その内容は、土木関係の技術計算全般を包括するようなものであります。

- 1 日 時：1970年12月15日(火) 9.30~17.00
- 2 場 所：中央電気倶楽部 215号室 電話 大阪 (06) 362-6351 番
大阪市北区堂島中2丁目9番地
3. 題目と講師：

9.30~12.00	① 概 説	日本道路公団建設第2部	森	康	男
		日本道路公団企画調査部	市	川	義博
13.00~16.00	② 機能と構成	日本道路公団建設第2部	森	康	男
		日本道路公団企画調査部	市	川	義博
16.00~17.00	グループディスカッション	司会、日本道路公団大阪支社建設第1部	岩	林	芳夫

4. 定 員：50名(先着順)
5. 参 加 費：無 料
6. 申 込 方 法：参加希望者は、勤務先、連絡先、氏名、および所属協会名を明記(様式随意)し、11月30日(月)までに下記へお申し込み下さい。参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。
- 申 込 先：建設コンサルタンツ協会大阪支部計算機研究委員会 電話 大阪 (06) 351-9369 番
大阪市北区与力町1丁目15番地 北末広ビル(郵便番号 530)

(2) Gerwick 講演会

◀ 11月30日(月) ▶

共 催：プレストレスト コンクリート技術協会・土木学会関西支部・日本建築学会近畿支部

1. 日 時：1970年11月30日(月) 15.00~17.00
2. 場 所：大阪科学技術センター8階小ホール 電話 大阪 (06) 443-5321 番
大阪市西区靱1丁目118, 地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m 靱公園北東角
3. 題目と講師：アメリカにおけるプレストレストコンクリートの発展について FIP 副会長 Ben C. Gerwick
4. 定 員：100名
5. 聴 講：無料、来聴歓迎

(3) 海外事情講演会

◀ 1 月 18 日 (月) ▶

1. 日 時：1971 年 1 月 18 日 (月) 15.00~17.00
2. 場 所：好文倶楽部集会室 電話 大阪 (06) 345-1261 番
大阪市北区梅田 2 第一生命ビル 12 階 国鉄大阪駅前
3. 題目と講師：

開 会 挨拶
 15.00~16.00 ① イギリスの都市計画について
 16.00~17.00 ② 海外の公害対策——水質汚濁を中心として——
 閉 会 挨拶

土木学会関西支部長 福 山 真三郎
 大阪市総合計画局 橋 本 孝 正
 京都大学助教授工学部 工博 井 上 頼 輝
 土木学会関西支部幹事長 岡 田 清

4. 定 員：120 名
5. 聴 講：無料，来聴歓迎

本講演会終了後別掲のとおり，会員懇親会を催しますから多数御参加下さい。

(4) 会員懇親会

◀ 1 月 18 日 (月) ▶

1. 日 時：1971 年 1 月 18 日 (月) 17.00 よりの予定 (海外事情講演会終了後)
2. 場 所：好文倶楽部会議室 電話 大阪 (06) 345-1261 番
大阪市北区梅田 2 第一生命ビル 12 階 国鉄大阪駅前
3. 参加費：500 円
4. 申込期限：1971 年 1 月 11 日 (月)
5. 申込方法：参加希望者は勤務先，連絡先および氏名を明記 (様式随意) のうえ，参加費 500 円を添えて 1 月 11 日 (月) までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(5) 学生映画会

1. 上映映画 (本州四国連絡)

希望の橋の陰に (第 1 部)	16 ミリ	カラー	25 分
” (第 2 部)	”	”	25 分
” (第 3 部)	”	”	40 分
明石海峡海底記録	”	”	40 分
かけ橋の礎	”	”	40 分

2. 日時および場所

1970 年 12 月 2 日 (水) 14 時	神戸市立工業高専視聴覚教室	定員 100 名
” 3 日 (木) 15 時	神戸大学土木工学教室 306 教室	” 110 名
” 4 日 (金) 15 時	大阪大学土木講義室	” 80 名
” 5 日 (土) 13 時	関西大学誠之館特別講堂	” 500 名
” 7 日 (月) 13 時	大阪工業大学第二講堂	” 300 名
” 8 日 (火) 15 時	大阪市立大学工学部階段教室	” 300 名
” 9 日 (水) 14 時	近畿大学 19 号館 2 号教室	” 200 名
” 10 日 (木) 14 時 30 分	大阪産業大学工学部 5 号館 1 階会議室	” 100 名
” 11 日 (金) 15 時	大阪工業高専 3 階合同教室	” 300 名
” 12 日 (土) 13 時	大阪府立工業高専土木工学教室	” 200 名
” 14 日 (月) 14 時 40 分	立命館大学理工学部 6 号館 67 号教室	” 150 名
” 15 日 (火) 15 時	京都大学土木総合館	” 150 名

3. 参加費：無料，正会員の方の参加も歓迎します。

(6) 学生見学会

1. 参加者資格：土木学会学生会員
ただし申込期限までに入会手続のすんだものおよび大学院学生の正会員も有効
2. 参加費：100 円

3. 申込要領：参加希望者は学校名、氏名、参加回数（第2回、第3回の別）および集合場所（A班またはB班、第2回は不要）を明記し、参加費 100 円を添えて各学校の学生班長を経由のうえ申込期限までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。申込期限内に定員を超過した時は、学校別に人員の割当てをいたしますから含みおき下さい。学生班長は申込順位番号を付して一括申し込んで下さい。

第2回学生見学会（山陽新幹線工事見学会）

◀ 11月14日（土） ▶

1. 期 日：1970年11月14日（土）
2. 見学先：国鉄大阪新幹線工事局六甲トンネル工事，その他
3. 集 合：11月14日12時45分までに阪神電鉄本社前（大阪中央郵便局西入，国鉄大阪駅西南）
4. 行 程：13時00分阪神電鉄本社前発—西国街道經由—高架橋，武庫川橋梁車中見学—14.00 上ケ原六甲トンネル東入口着，上ケ原工区坑外見学 14.30 発—15.30 新神戸駅着，駅・六甲トンネル工事見学 16.30 発—17.30 国鉄大阪駅着解散
5. 申込期限：1970年10月30日（金）
6. 定 員：100名

第3回学生見学会（青蓮寺ダム，高山ダム見学）

◀ 11月28日（土） ▶

1. 期 日：1970年11月28日（土）
2. 見学先：水資源開発公団関西支社 青蓮寺ダム，高山ダム
3. 集 合：（A班）11月28日8時45分 京都大学土木工学教室前
（B班） ” 9時00分 立命館大学土木工学教室前
4. 行 程：9時0分京都大学発—9.15 立命館大学經由—11.30 高山ダム着，昼食，見学 13.30 発—14.30 青蓮寺ダム見学 15.30 発—18.00 国鉄京都駅着，解散
5. 申込期限：1970年11月13日（金）
6. 定 員：50名
7. 昼 食：弁当各自持参のこと。

（付）テキスト頒布について

物理探査の土木工事への応用	頒価	1000円	送料	80円
都市廃棄物の処理と処分	”	800円	”	60円
土木工事における土中水の扱い方	”	1500円	”	80円
工程管理（演習問題解答付）	”	1500円	”	100円
工事の安全対策	”	1000円	”	80円
近畿開発と大型土木プロジェクト	”	600円	”	60円
写真測量とその応用	”	1200円	”	80円

上記のテキスト御希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

中国四国支部行事案内（郵便番号 730 広島市基町 10 番 3 号・自治会館内）
土木学会中国四国支部事務局電話（0822—21—2666）

昭和 45 年度土木学会中国四国支部・土質工学会四国支部共催秋季講習会・見学会

（1）講習会

◀ 12月8日（火） ▶

1. 開催月日：1970年12月8日（火）9.00～17.00
2. 会 場：高知市本町 18 番地 高知電気ビル 8階
3. テキスト：軟弱地盤の調査・設計・施工法（土質基礎工学ライブラリー 1）
（テキスト代：会員 1000 円 非会員 1200 円）
4. 聴講費：会員 500 円 非会員 800 円
5. 定 員：200 名 先着順（11 月 28 日締切）
6. 申込方法：文書による予約申込（連絡先・氏名・会員・非会員の別記入）
7. 申 込 先：土質工学会四国支部（高松市福岡町 4 丁目 26 の 32 四国地方建設局企画室内 〒 760）

時間割予定：

- 第1編 軟弱地盤とその調査；第1章 地形と地質／第2章 調査法／第3章 工学的な性質
 第2編 設計・施工；第1章 安定と沈下／第2章 盛土などの対策／第3章 土木構造物における杭基礎／第4章 建築構造物

(2) 見学会

◀ 12月9日(木) ▶

1. 開催月日：1970年12月9日(木) 9.00～16.00
 (解散 大杉駅 14.30 高知駅 16.00)
2. 参加費：600円
3. 定員：45名
4. 見学地：浦戸大橋・早明浦ダム
5. 申込方法：講習会に同じ

西部支部行事案内 (郵便番号 810 福岡市薬院2丁目 14-21)
 電話 (092) 78-3716

(1) 昭和45年度支部総会

◀ 2月21日(日) ▶

1. 期 日：1971年2月21日(日)
2. 場 所：九州大学工学部防音教室
3. 議 題：
 - ① 昭和45年度事業および会計中間報告
 - ② 来年度事業について
 - ③ 来年度支部長紹介
 - その他
4. 本掲載をもって御案内といたします。会員諸氏多数ご出席下さい。

(2) 昭和45年度研究発表会

◀ 2月21日(日) ▶

1. 開催期日：1971年2月21日(日) 9.00から
2. 会 場：九州大学工学部防音教室
3. 発表申込：1970年12月20日までに勤務先、会員、種別、氏名、発表題目を支部あてに申込んで下さい。1人1題とします。共同研究の場合、発表者に○印のこと。発表者は会員であること。
4. 発表時間：1題につき15分(質問時間を含みます)、スライドは使用できません
5. 原稿提出：
 - ① 原稿はオフセット印刷とします。原稿用紙は支部に請求して下さい。
 - ② 原稿用紙は1枚(1ページ)1620字詰。1題につき2枚とします。超過は4枚まで認めますが、1枚につき1000円を原稿と同時に送付して下さい。
 - ③ 原稿提出：1971年1月25日までに支部へ。
 - ④ 増刷20部さしあげます。それ以上必要な場合は、原稿送付のとき部数を申出て下さい。実費申受けます。
6. 申 込 先：福岡市薬院2丁目14-21
 〒810 土木学会西部支部(電 78-3716)

(1) Schnellbahnbau '71 (高速度鉄道建設 '71)

開催期日: 1971年1月27日, 28日

開催地: ベルリン

主催: ベルリン工科大学

テーマ: 密集地帯における高速度交通の計画, 建設および作業

問合先: Senator für Bau-und Wohnungswesen 1
Berlin 31

Württembergische Strasse 6-10

(2) IABSE Symposium on Mass-Produced Steel Structures (続報)

本年5月号国際会議ニュース欄に公告した標記シンポジウムに論文を提出したい人は本年12月31日までに題目と要旨(タイプ用紙2枚以内)をIABSE本部宛送らなければなりません。ついては, 参加を希望の方は詳細を下記へお問合せ下さい。

東日本: 東京大学工学部 伊藤 学 助教授

西日本: 大阪大学工学部 前田幸雄 教授

(3) International Symposium on Experimental Analysis of Instability Problems on Reduced and Full-Scale Models

期日: 1971年9月13日~15日

開催地: アルゼンチンのブエノスアイレス

テーマ: 1. Buckling of plate or prismatic structures
2. Buckling of plate and shells-buckling of space trusses
3. Non-classical problems of instability of equilibrium: creep buckling-dynamic buckling in connection with thermal problems-post buckling behaviour, etc.

会議用語: 仏語, 英語, スペイン語

論文: タイトルと20~30行のsummary-1970年11月30日まで

論文(4000語以内, 英語または仏語)3部-1971年3月1日まで

最終参加申込期日: 1971年4月30日

参加費: RILEM 会員 U.S. \$30.00

会員外 U.S. \$50.00

申込先: The Secretariate

RILEM International Symposium 1971
Instituto Nacional de Tecnologia Industrial
Libertad 1235-3er, Piso

(4) 第6回 X線光学およびマイクロアナリシス国際会議 (Sixth International Conference on X-Ray Optics and Microanalysis)

この国際会議は1956年ケンブリッジでの第1回会議以来3年ごとに開かれ, 59年ストックホルム, 62年スタンフォード, 65年パリ, 68年チュービンゲンと回を重ね, 第6回会議は下記のように日本で開かれることになりました。関係各位の参加を歓迎します。

会期: 1971年9月5日(日)~9月10日(金)

会場: 大阪科学技術センター

主催: 日本学術会議

共催: 応用物理学会

会議の主要題目

1. X線光学, X線顕微鏡および関連分野
2. 粒子線光学および関連分野
3. X線マイクロアナリシス: 基礎問題
4. 同上: 定量補正, その他
5. マイクロアナリシスの新方法および関連装置
6. 走査型電子顕微鏡
7. マイクロ回折, チャンネリング効果, カソード・ルミネッセンス
8. 半導体その他への応用
9. 金属学, 鉱物学等への応用
10. 生物学, その他への応用

関連行事, 論文提出, 登録, その他

会期中, 日本学術会議会長レセプション, 懇親会, 工場見学等が予定されており, 観光, 婦人のためのプログラムも用意されます。また関連科学機器の展示も予定されています。参加および論文提出希望者は下記の会議事務局から第1回サーキュラーを入手のうえ至急, お申し込みください。申込者には会議の詳細を記載した第2回サーキュラーを後日送付します。

参加予定人員

国内外合せておよそ600名を予定

会議事務局

〒106 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議

第6回X線光学およびマイクロアナリシス

国際会議組織委員会

電話 東京 (03) 403-6291

日本学術会議

第6回X線光学およびマイクロアナリシス

国際会議組織委員会

委員長 篠田 軍 治

総務幹事 市ノ川 竹 男